



「北の住まいるタウン」の実現に向けて（鹿追町）



平成29年6月

鹿 追 町

目 次

1. はじめに	1
(1) 本書の趣旨	1
(2) 構成	1
2. 鹿追町の概要	2
(1) 位置・地勢	2
(2) 交通	2
(3) 人口	4
(4) 産業	5
(5) 土地利用	5
(6) 地域の構造	6
3. 課題の整理	7
(1) 鹿追町の現状	7
(2) 課題の整理	13
4. 取組の方向性と具体的な取組	14
(1) 取組のコンセプト	15
(2) 取組の方向性と具体的な取組	15
○参考資料編	21
参考資料1 「北の住まいるタウン」鹿追町地域協議会構成員名簿	21
参考資料2 「北の住まいるタウン」鹿追町地域協議会取組経過	22

1. はじめに

(1) 本書の趣旨

北海道の優位性が活かされ、地域特性に応じ、安全・安心で暮らしやすく、資源循環が進んだ効率的な都市構造を有する、誰もが安心して心豊かに住み続けられるまち・地域づくりを目指す「北の住まいるタウン」の推進に向けて、北海道が募集した、コンパクトなまちづくりや低炭素化・資源循環及び生活を支える取組を一体的に進めるモデル市町村に選定されたことから、町内の関係する住民の方々からなる「地域協議会」を設置し、これまで課題の整理や取組の方向性などの必要な検討等を行ってきた。

本書では、これまで取り組んできた地域協議会での検討内容を踏まえ、今後鹿追町として「北の住まいるタウン」を推進するため取り組む事項を計画に取りまとめるものである。

(2) 構成

本書の構成は、以下のとおりとなっている。

本書の構成

はじめに

- ・ 本書の趣旨及び構成を整理



鹿追町の概要

- ・ 鹿追町の概況の整理（位置・地勢、交通、人口、産業、土地利用）
- ・ 町の概況から、地域の構造を「市街地」、「生活拠点地域」、「周辺地域」として整理



課題の整理

- ・ 鹿追町の概況、現状をもとに、課題や優位性を整理



取組の方向性と具体的な取組

- ・ 整理された課題等をもとに2つのコンセプトを作成、コンセプト毎に考察した上で、取組の方向性及び具体的な取組を整理

2. 鹿追町の概要

(1) 位置・地勢

- ・鹿追町は大雪山国立公園の南麓に位置し、十勝圏の北西部に位置する。
- ・隣接する市町村は、北西部および西部に新得町、東部および北東部に士幌町、上士幌町が位置する。また、南西部に清水町、南部に芽室町、南東部に音更町が位置する。
- ・十勝圏域の中心都市である帯広市は、鹿追町の南部に位置し、音更町の南、芽室町の東に隣接している。
- ・東西 17.7km、南北 39.8km、面積は 404.69 km²で十勝総面積の 3.74%を占める。
- ・大雪山系の山並みを水源とする然別川が町内を南北に貫流。
- ・北高南低の扇状に丘陵地帯が広がる農耕適地。
- ・積雪寒冷地帯。晴天割合が多く、降水量・積雪量が少ないものの寒暖の差は大きい。



鹿追市街地からのアクセス

(2) 交通

■鹿追市街地からのアクセス

- ・バスで JR 新得駅までバスで約 20 分、音更市街地までバスで約 40 分、十勝圏の中心都市である帯広市まで約 1 時間。
- ・車で十勝清水インターおよび清水市街地まで約 25 分。
- ・車で帯広空港までは、道東道および帯広・広尾自動車道を活用し約 1 時間。

■路線バス（3 路線）

- ・新帯線：新得～鹿追市街地～音更～帯広間。
- ・鹿追線：帯広～音更～鹿追市街地間。
- ・然別湖線：帯広～音更～鹿追市街地～然別湖間。

■町営バス

- ・スクールバス 6 路線、患者輸送バス 4 路線。

■町内の主な道路

- ・国道 274 号線：鹿追町市街地から瓜幕まで南北に縦断し、東の士幌町へ向かう道路。
- ・道道東瓜幕芽室線（54）：東瓜幕～芽室間。
- ・道道鹿追糠平線（85）：瓜幕～然別湖間。
- ・道道然別峡線（1088）：北瓜幕～然別峡間。
- ・道道音更新得線（133）：新得～鹿追市街地～音更間。
- ・道道鹿追停車場線（416）：鹿追市街地中心を南北に走る道路。
- ・道道屈足鹿追線（593）：瓜幕西～新得間。
- ・道道笹川士幌線（771）：笹川北～士幌間。
- ・町道が碁盤目状になっている。



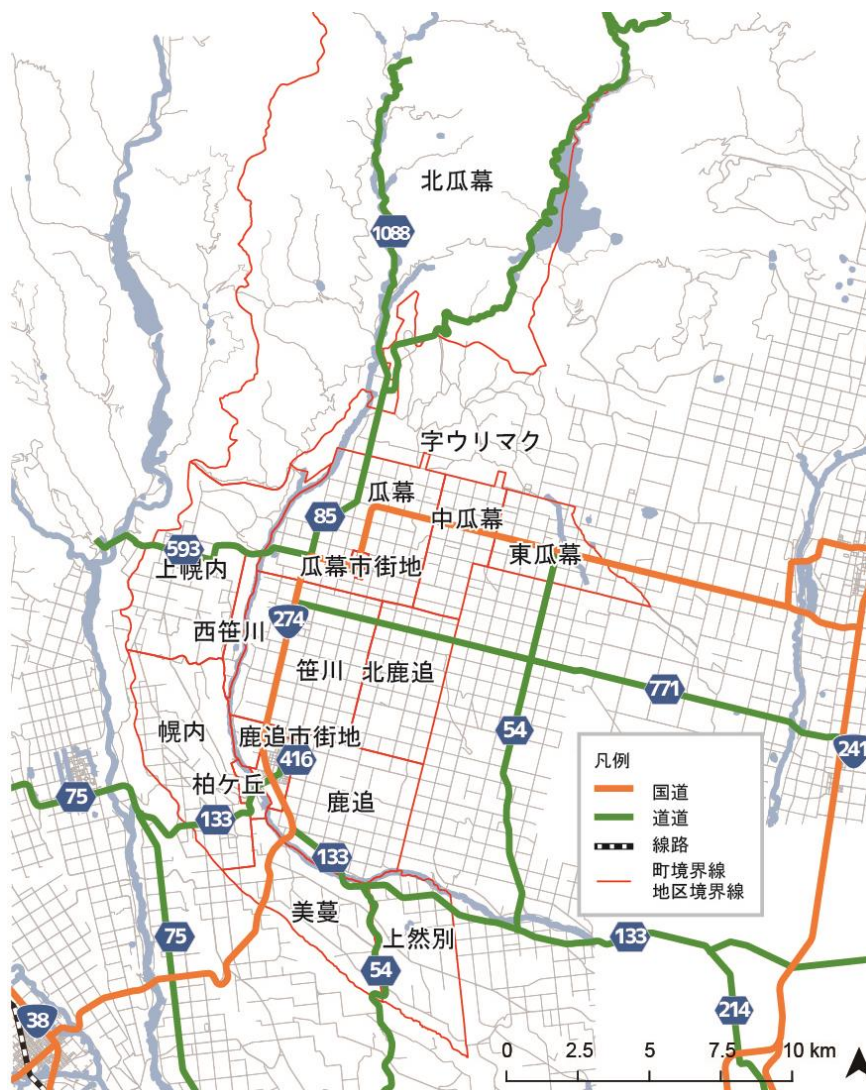
路線バス（3 路線）



スクールバス（6路線）



患者輸送バス（4 路線）

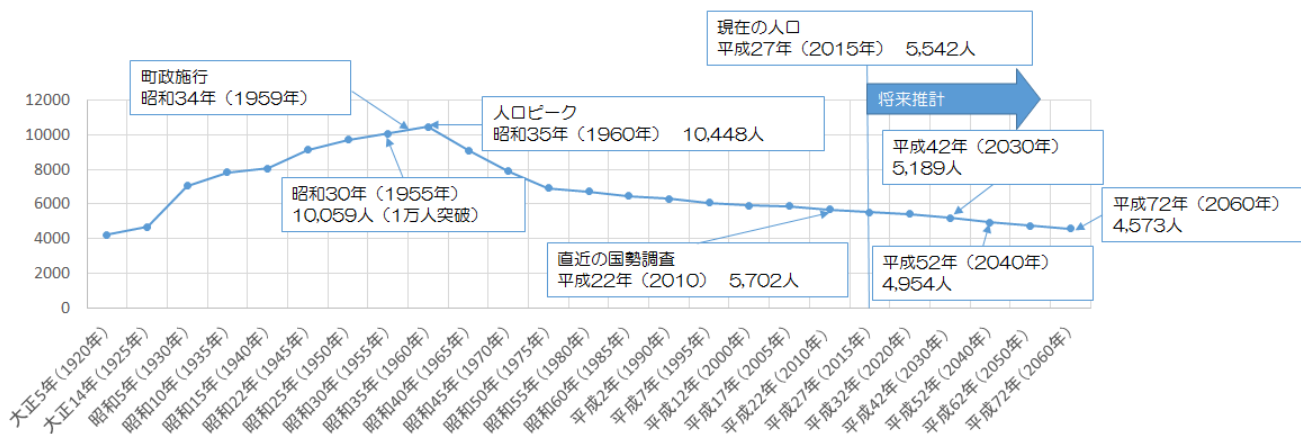


町内の主な道路

(3) 人口

■人口推計

- ・昭和 35 年（1960 年）10,448 人をピーク に、昭和 50 年（1975 年）まで急激な人口減少。
- ・昭和 50 年（1975 年）以降は緩やかに減少。
- ・現在の人口は、平成 27 年国勢調査によれば 5,542 人（平成 22 年は 5,702 人）。
- ・将来の人口は、平成 42 年（2030 年）で 5,189 人、平成 52 年（2040 年）には 4,954 人と推計（町の独自推計）。

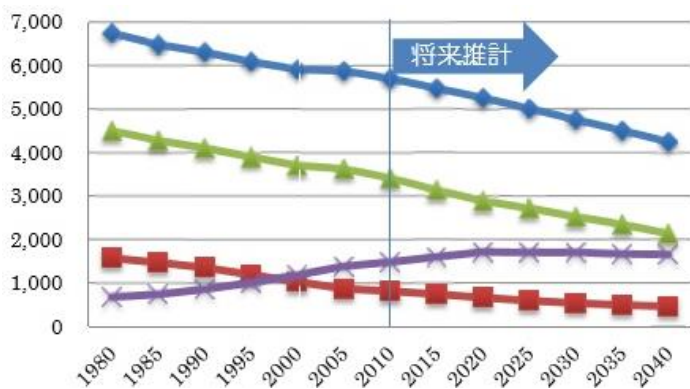


人口の将来推計

（出典：国勢調査、町の独自推計より作成）

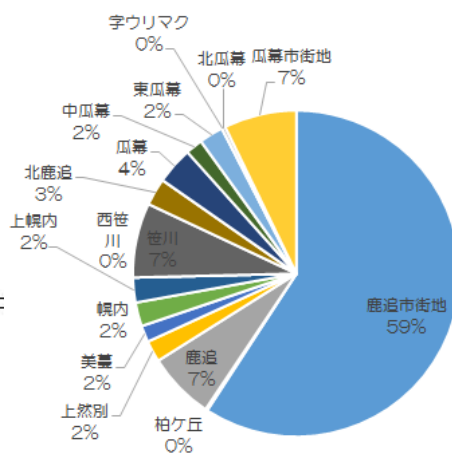
■地区別人口と少子高齢化

- ・人口の約 6 割が鹿追市街地に集中している。
- ・鹿追市街地と瓜幕市街地が生活拠点となる地域であり、周辺の笹川地区、上幌内地区、東瓜幕地区などは農家が点在する地域となっている。
- ・年少人口比率は 14.7%（北海道平均は 11.3%）と、ほぼ横ばい（平成 22 年は 14.3%）。
- ・高齢化率は 28.5%（北海道平均は 29.0%）と、高齢化が進行（平成 22 年は 24.7%）。
- ・将来、老年人口は平成 32 年(2020 年)をピークに緩やかに減少と推計。
- ・平成 52 年(2040 年)には人口 4,954 人、うち老年人口は町全体の 33.5%を占める見通し（生産年齢人口は 53.1%）。（町の独自推計）



三区分別の人口推移

（出典：鹿追町人口ビジョン 2015 より作成）



平成 27 年(2015) 地区別人口比率

（出典：平成 27 年国勢調査より作成）

(4) 産業

■産業構造

- ・産業（大分類）別民営事業所の売上（収入）金額試算値は 15,875 百万円（平成 26 年経済センサス基礎調査）。内訳は、1 次産業が 38%、2 次産業が 16%、3 次産業が 46%となり、2 次産業が少ない。
- ・業種別では、農業が 38%と全体の約 4 割を占め、続いて卸売業・小売業が 17%、建設業が 14%などとなっている。

■就業者数

- ・産業別就業人口（総数約 3,100 人）をみると、1 次産業が 37%、2 次産業が 6%、3 次産業が 56%と、2 次産業就業者が少ない。
- ・産業別就業者数は農業が 36%と最も多く、公務 12%、サービス 12%、卸・小売業 9%、医療・福祉 8%、飲食店・宿泊業 5%などとなっている。

■農業

- ・北海道、十勝の中でも有数の農業地帯。
- ・土地基盤整備や生産の合理化により、肥沃な農地を活用する酪農・畜産、畑作を中心とした大規模農業を展開。
- ・農業の生産額は、約 21,000 百万円。そのうち、乳用牛が約 50%、肉用牛が約 20%で、馬、豚を含めた酪農・畜産の割合が全体の約 70%を占める。
- ・畑作における主な農産物は馬鈴薯、てん菜、小麦などで、全体の約 30%を占める。
- ・酪農・畜産、畑作の生産額は、年々伸びている。

■観光業

- ・大雪山国立公園の自然に恵まれ、然別湖畔、然別峡を中心に年間 81 万人（平成 27 年度）を超える観光客が訪れている。
- ・5 月～10 月が繁忙期で、11 月～4 月までは閑散期となる。
- ・道内客が約 70 万人と全体の約 86%、日帰客は約 74 万人と、全体の約 91%を占める。

(5) 土地利用

■土地利用状況

- ・総面積（404.69 km²）の約半分を山林が占め、平野部には畑が広がる。
- ・山林の次に多いのが約 30%を占める畑。
- ・山林の多くは、大雪山国立公園に位置し、保護されている。
- ・町の北半分が森林ゾーンであり、然別湖など観光スポットとなっている。
- ・町の南半分は農業ゾーンであるとともに、住居や生活利便施設等が集まっている鹿追市街地や瓜幕市街地がある。

(6) 地域の構造

人口、産業、土地利用などにより、地域の構造は概ね以下のとおり整理される。

区 分	概 要	該当する地域	特 徴
市 街 地	商業、行政、文化・スポーツ、交通など、まちの様々な機能が集中している自治体の中心都市	鹿追市街地	[人口] 人口は多く、人口密度が高い [産業（施設）] 三次産業が集中している [土地利用] 住居・生活利便施設等が集中している
生 活 拠 点 地 域	市街地と周辺地域とを結び、市街地にある機能の一部を有した生活拠点	瓜幕市街地	[人口] 市街地より人口密度がやや低い [産業（施設）] 生活利便性のある三次産業がある [土地利用] 住居・生活利便施設等のまとまりがみられる
周 辺 地 域	酪農や畑作など、農業を主産業とした地域で、住居が広く分散している	柏ヶ丘、上然別、美蔓、幌内、上幌内、西笹川、笹川、北鹿追、瓜幕、中瓜幕、東瓜幕、北瓜幕	[人口] 人口は少なく、人口密度が低い [産業（施設）] 畑作、酪農・畜産 [土地利用] 住居が散居している形態をなす
隣 接 市 町 村	隣接する市町村	新得町、清水町、芽室町、音更町、土幌町、上土幌町	
圏 域 中 心 都 市	十勝圏における商業、医療等、都市機能が充実した地域	帯広市	

3. 課題の整理

(1) 鹿追町の現状

鹿追町等が有するデータ、関係機関へのヒアリングから「鹿追町の現状」を以下のとおり整理した。

①生活

■買い物

現状	・鹿追市街地はスーパー2店、ホームセンター1店、医療化粧品店1店、衣料品店1店、コンビニ2店があり、食料品や日用品など買い物が全般的に可能である。 ・瓜幕市街地にはスーパー、食料品店、医療化粧品店が各々1店、また、東瓜幕地区にスーパーが1店ある。周辺地域の住民の日常的な買い物は、これらの店舗の利用とともに、品揃えの豊富さなどから、鹿追市街地での買い物がなされている。Aコープは3店舗（鹿追店、瓜幕店、東瓜幕店）あるが、品数は鹿追店が多い。 ・買い物は、鹿追市街地において、比較的徒歩での買い物が可能な面はあるが、ほかの地域においては鹿追市街地や最寄りの店舗まで、徒歩では困難な場合が多く、自家用車やバスの利用が不可欠な状況にある。 ・買い物において、バスに比べ自家用車を使う方が多いが、運転免許を持たない方、高齢の方で、家族に頼らず自分でも買い物に行きたい方、また、現在自分で運転しているが、高齢となり車の運転が困難になってくることなどから、平成27年度よりタクシー利用助成券の配布を行っているが、増配の要望が多い。また、バス等の生活交通の利便性確保充実も必要。 ・徒歩での利用が困難な地域の方など、移動のための交通手段が必要である。 ・買い回り品などの買い物やレジャーなどを含め、多目的なショッピングなどについては、大型ショッピングセンターや百貨店等を利用するため、帯広市や音更町へのアクセス確保、充実が必要である。
----	--

■医療

現状	・鹿追市街地に、病院、診療所、歯科が集積している（鹿追町国民健康保険病院ほか4医院）。 ・徒歩での利用が困難な地域の方など、移動のための交通手段が必要である。 ・高齢により、車の運転が困難となってくる方などの交通手段が必要である。 ・耳鼻咽喉科、産婦人科など町内での診療が困難な場合には、帯広市や芽室町等に行く必要があるため、交通の確保が必要である。 ・町内在住の妊婦が十勝管内医療機関で妊婦健康診査などの診査を受けた場合、診査経費の全部のほか、通院経費の一部を助成している。
----	--

■福祉・子育て・介護

現状	・鹿追市街地に特別養護老人ホーム、老人保健施設、子育て支援センター、ホームヘルパーの派遣など、各種の福祉・子育て・介護関連施設が集積（９施設）している。 ・鹿追町社会福祉協議会は、高齢者や障がい者のいる家庭にホームヘルパーを派遣し、家事援助・身体介護や、他の福祉施設への橋渡しなどの対応を実施している。また、保健予防等の生活支援サービスのコーディネート、健康診断や育児のサポートを実施している。 ・医療機関連携型の高齢者専用住宅（１８戸）と高齢者自立生活支援センターを国保病院に併設して整備、常駐する生活支援員が自立生活に向け生活指導・相談・安否確認等を実施している。 ・子育て支援センターでは、就学前親子対象の遊びサークル、休日一時保育などの活動を実施している。 ・鹿追市街地に集積している福祉・子育て・介護施設の利用において、利便性を幅広く確保するため、公共交通等の確保・充実が必要である。 ・高齢化が進行する中、高齢者住宅の需要が高まってきており、鹿追市街地の様々な機能サービスを有する利便性を考慮しながら対応の検討が必要である。 ・高齢者と子育て世代など多様な世代の交流、地域住民との交流など、幅広い交流を促進することが必要である。
----	--

■文化・スポーツ・娯楽施設

現状	・鹿追市街地に、図書館、スポーツセンターなどが集積している。 ・鹿追町ならではの文化施設として「神田日勝記念美術館」「福原記念美術館」がある。 ・各施設を利用しやすい休日やイベントなどの開催の多い土・日曜日については、公共交通機関は路線バスのみとなり、運行本数も減少することから、利便性の確保が必要である。 ・鹿追市街地に集積している図書館、スポーツセンターなど各施設について、町民が広く利用しやすいよう、公共交通等の確保・充実が必要である。 ・町外では新得町の「スポーツ芝生広場サッカー場」、芽室町の「帯広の森スピードスケート場」、清水町のアイスホッケー場も活用されている。 ・冬季に中学校のスケート部の選手を町営バスで帯広の森スピードスケート場まで送迎している。
----	--

■公共公益施設

現状	・公共公益施設は鹿追市街地と瓜幕市街地、東瓜幕地区にある。 ・鹿追市街地には、役場、郵便局、信用金庫、消防署、警察署（駐在所）などがある。 ・瓜幕市街地には、役場支所、郵便局、消防署（分団）、警察署（駐在所）などがある。 ・東瓜幕地区には、郵便局、消防署（分団）などがある。 ・町民が広く利用しやすいよう、公共交通等の確保・充実が必要である。 ・町が管理するインフラ施設の老朽化が進行し、維持管理コストの負担が懸念される。 ・地方銀行や都市銀行、自動車学校などは、帯広市・音更町・新得町に行く必要がある。
----	--

■学校関連施設

現状	・小学校は町内全域に 5 か所、中学校は鹿追市街地と瓜幕市街地にあり、スクールバスの運行により通学をサポートしている。 ・高校は鹿追市街地に鹿追高等学校があり、帯広市や音更町など町外からも通学している。 ・鹿追高等学校では、姉妹提携を締結しているカナダ・アルバータ州・ストニープレイン町への短期留学など、交流が行われ、魅力あるカリキュラムが実施されている。 ・こども園が鹿追市街地にあり、保育所が笹川地区、上幌内地区、瓜幕市街地、東瓜幕（通明）地区にある。 ・児童の習い事やスポーツセンター等での活動などがしやすくなるよう、公共交通の充実が必要である。
----	--

■住宅環境

現状	・公営住宅の管理戸数は 594 戸あり、入居率は平成 27 年度で 78%となっている。 ・高齢者専用住宅（18 戸）が国保病院に併設している。 ・入居者数に大きな変動がない。 ・公営住宅の老朽化が進んでいる中、町では公営住宅管理戸数の適正化を進めている。 ・高齢者住宅の需要が高まってきており、鹿追市街地の様々な機能やサービスを有する利便性を考慮しながら対応を検討することが必要である。 ・高齢者と子育て世代など、多様な世代の交流、また地域の住民交流など、地域コミュニティを促進する場、機会づくりが必要である。 ・町外からの通勤者に対する町内居住の促進が必要である。 ・鹿追市街地の空き地・空き家の把握と有効活用が必要である。
----	---

② 交通

■交通の状況

現状	・住民の移動手段は、出かける目的の如何を問わず「車の運転」が多く次いで「徒歩」「車による送迎」「自転車」と続く。また、利便性が向上すればバスの利用を考える住民は過半数となっている。（鹿追町地域公共交通総合連携計画アンケート） ・バスには、路線バス（拓殖バス）3路線のほか、町営のスクールバス6路線、路線バスのない地域の通院者を対象とした患者輸送バス4路線がある（P2～3参照）。 ・スクールバスは、利用者に合わせ、毎年ルートの変更が行われている。 また、一般の住民の乗車も可能である。 ・平成22年度、町営バスでデマンドバスの運行を試行したが、利用者は少なかった。 ・平成26年度より「町内子ども地方路線バス利用助成制度」を実施。高校生以下の子供達の日常的な交通手段の確保と公共交通の利用促進を図っている。 ・平成27年度より町内の高齢者等を対象に、高齢者等の細やかな交通手段の確保や外出機会の促進を図る目的で「鹿追町高齢者等社会参加促進事業」を実施。タクシー運賃の一部を助成しており、町内の移動に限り、自由に使うことができる。 ・平成29年度より、高齢者の運転免許返納に伴う社会参加を促進するため、タクシー券を増配する予定。
----	---

③ エネルギー

■家庭部門および公共公益施設におけるエネルギー消費状況

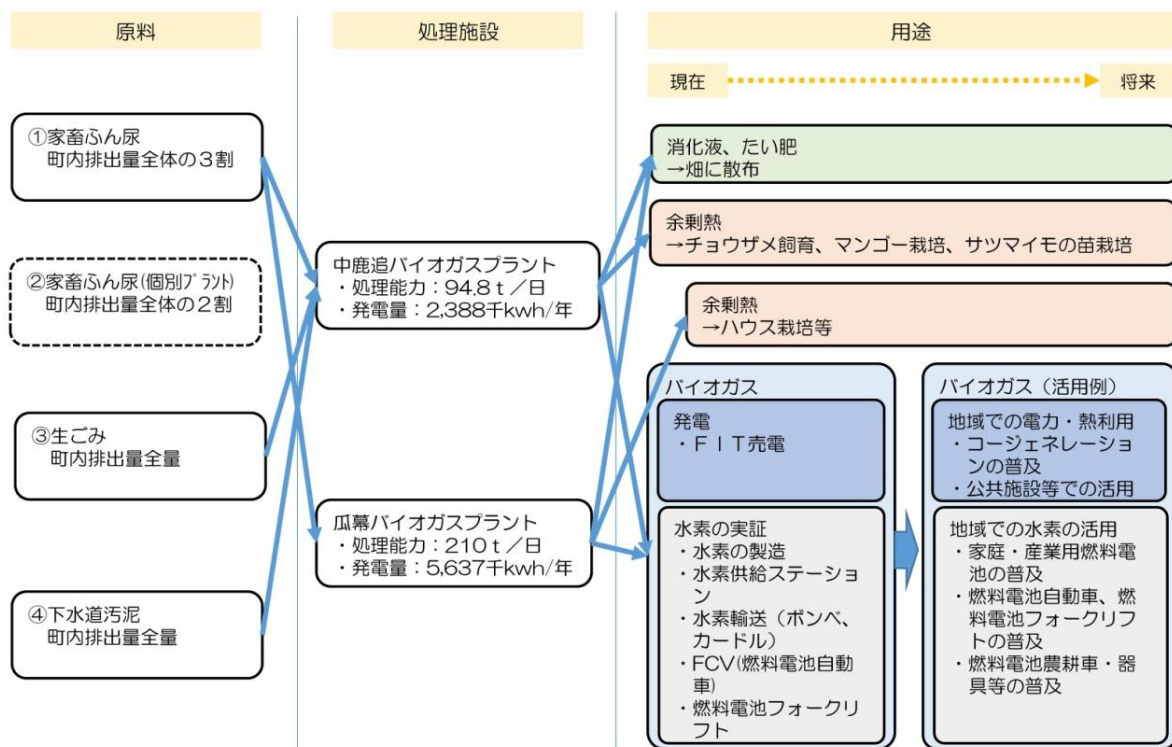
現状	・一世帯あたりのエネルギー消費量は、全国の約1.87倍、北海道平均の1.48倍と多い74.9MJ/年。（鹿追町地域新エネルギービジョン） ・灯油（暖房）の使用量が、北海道内平均の倍近くにのぼる。 ・公共公益施設でのエネルギー消費量は鹿追町国保病院が最も多く、次いで町民ホール、温水プール、トリムセンターと続く。 ・後述のバイオガスプラントの利用が可能な場合、エネルギー転換による住民の光熱費負担減や公共施設経費削減が期待される。
----	---



中鹿追バイオガスプラント全景

■バイオガスプラント

現状	・家畜ふん尿の適切な処理、生ごみや汚泥の資源化、市街地周辺の環境改善等の課題解決のため、平成 19 年 10 月に鹿追町環境保全センター（中鹿追バイオガスプラント）を稼働、平成 28 年 4 月に瓜幕バイオガスプラントが稼働を開始した。 ・堆肥・液肥の製造、余剰熱の活用などにより、CO₂ 排出量の削減、環境の改善、農業の生産性向上や新規産業の創出に貢献している。 ・家畜ふん尿処理の問題解決はもとより、液肥の散布による農作物への化学肥料の低減と農作業の負担軽減につながっており、農家からは好評である。 ・瓜幕プラントは、中鹿追プラントの 2.2 倍の家畜ふん尿等の処理能力がある。 ・中鹿追プラントでは、余剰熱をマンゴー栽培やチョウザメの飼育、サツマイモの苗栽培等で利用。平成 28 年度本格稼働した瓜幕プラントの余剰熱を、身近な活用を含めて検討していくことが重要である。 ・バイオガス発電によるエネルギー製造と売電による健全な事業化が実施されている。 ・発電量は、鹿追町で消費する家庭の電力の約 8 割に匹敵する（8,025 千 kWh/年）。 ・水素については「家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業」（環境省）を平成 27 年度より実施、FCV（燃料電池自動車）や各種施設など地域での活用が期待されている。 ・今後は、発電のみでなく、バイオガスの地域活用方法の検討も必要である。
----	---



鹿追町のバイオガスプラントの現況

④ 地域資源

■地域資源

現状	○体験留学など ・ジオパーク、ネイチャーセンター、ライディングパーク、自然体験留学センターなど自然を体験・学習できる施設がある。 ・ジオパークビジターセンター 然別湖を中心とした自然環境の保全・活用を行うため、H25年12月、日本ジオパーク委員会の認定を受けた。H28年度ジオパークビジターセンターがオープンしている。 ・然別湖のネイチャーセンター アウトドア体験、環境学習など、自然環境を活かした体験・学習が実施されている。 ・農家による体験型牧場など、地域の産業を活かした施設がある。 ・ピュアモルトクラブなど、農業体験が可能な青年交流施設がある。 ○温泉 ・然別湖畔、然別峡を中心に温泉宿泊施設がある。 ・「然別湖コタン」（冬期イベント）など各種イベントが季節ごとに行われている。 ○牧場 ・娯楽施設やレストランなどがある牧場があり、家族連れなどで楽しむことができる。 ○道の駅 ・「道の駅しかおい」は鹿追市街地にあり、近隣に神田日勝記念美術館などの文化施設がある。 ・「道の駅うりまく」は瓜幕市街地にあり、ライディングパークと隣接、家族連れなどで楽しむことができる。 ○観光客が活用する資源 ・然別湖畔・然別峡関連の場所や施設が多い。 ・十勝管内の他市町村と比較して、集客度は高いが、宿泊度が低い。
----	---



道の駅うりまく



ジオパークビジターセンター

(2) 課題の整理

地域協議会の議論、関係機関へのヒアリングから、「地域の課題」を以下のとおり整理した。

①生活関連

■買い物

- ・鹿追市街地において、経営者の高齢化などが考えられ、後継者がいなければ廃業となる。地域における買い物が確保されるよう、生活交通の確保、充実とともに、移動購買車や配送サービス、ネット通販等の活用を含めながら、食料品、日用品等の物販サービスを維持していく必要。
- ・多目的なショッピングなどについては、帯広市や音更町へのアクセス確保、充実が望まれる。

■医療

- ・患者輸送バス等、通院に必要な交通手段について、利用状況やニーズなどから、さらなる充実について検討が必要。
- ・町内での診療が困難な場合には、帯広市や芽室町等に行く必要があるため、交通の確保や移動への支援が望まれる。

■福祉・介護・子育て

- ・鹿追市街地に集積している福祉・子育て・介護施設の利用において、利便性を幅広く確保するため、公共交通等の確保・充実が望まれる。
- ・高齢者住宅の需要が高まってきており、交通機関を使わずに鹿追市街地の様々な機能サービスを利用できるよう、居住地を移動する方法についても検討することが必要。
- ・人と人とのつながりを大切にし、高齢者と子育て世代など多様な世代の交流、地域住民との交流など、幅広い交流を促進していくことが必要。

■文化・スポーツ

- ・町民が広く利用しやすいよう公共交通等の確保・充実が望まれ、特に、利用者の多い休日や土曜日、日曜日については、利便性の確保が望まれる。

■公共公益施設

- ・町民が広く利用しやすいよう公共交通等の確保・充実が望まれる。
- ・インフラ施設の老朽化に伴う更新を含め、長期の維持保全計画に基づく維持管理が重要。

■学校関連施設

- ・児童、生徒の通学について、スクールバスや路線バスによる生活交通の確保が必要。
- ・生活拠点地域や周辺地域に住む子供達等の習い事や図書館利用、スポーツ活動などの利便性が高まるよう公共交通等の充実が望まれる。
- ・特色ある鹿追高校などの取り組みを、地域の活性化につなげていく必要がある。

■住宅環境

- ・高齢者住宅の需要が高まってきており、市街地の様々な機能やサービスを享受しながら生活できる住環境づくりが、生活交通の確保との双方の取り組みにより進められることが望まれており、利便性を考慮しながら対応を検討することが必要。
- ・多様な世代の交流、地域の住民交流など、地域コミュニティを促進する場、機会づくりが必要。
- ・空き家、空き地の把握と有効活用が必要。また、農家地域の廃屋の適切な整理が必要。
- ・町外からの通勤者やUターン希望者等の町内居住を促進する手段が必要。

②生活交通関連

■交通

- ・行政、商業、医療、福祉、文化、スポーツ等の機能が集積している鹿追市街地と、町の経済を支える酪農・畑作の基盤に沿った、分散して居住形態が広がる地域間を交通ネットワークで結び、買い物、通院といった生活や教育、生産、経済活動を支えることが望まれる。
- ・利便性などを確保していくため、町内においては路線バスの運行とともに患者輸送バス、スクールバスの運行、子どもバス利用助成、高齢者等タクシー助成を行っており、交通サービスは充実しているが、さらに高齢化の進行などを踏まえた対策が望まれる。
- ・現在の利用状況を踏まえながら、利用しやすいバス運行へのさらなる取組も必要。

③エネルギー関連

■バイオガスプラント

- ・効率的な農業経営への寄与や収支的なメリットを認識し、今後の方向性を持つことも重要。
- ・中鹿追プラントでは、余剰熱をマンゴー栽培やチョウザメの飼育、さつまいもの苗栽培等で利用しているが、今年度本格稼働した瓜幕プラントの余剰熱の活用についても検討していくことが重要。
- ・バイオガスプラントが新規産業の創出や通年雇用など雇用の確保に繋がる取組が必要。
- ・水素利用の可能性など将来を見据えたエネルギー活用方法の検討が重要。

④地域資源関連

■地域資源

- ・豊かな自然環境を有し、有数の酪農・畑作地帯を活かして、鹿追町においては、ジオパーク、ネイチャーセンター、ライディングパーク、自然体験留学センター、ピュアモルトクラブハウス、神田日勝記念美術館など、山村留学、農業体験、環境学習、各種研修などに利用できる体験学習施設や教育・文化施設が充実している。また、国内有数のバイオガスプラントには、資源循環の取組に対して視察者なども多い。こうした施設や取組を活かして、まちの魅力、愛着を深めるとともに、情報発信により知名度の向上、交流の促進、人の呼び込み、定住の促進につなげていくことを考える。
- ・バイオガスプラントを利用したチョウザメ飼育などや地元農産物の加工品の開発などにより、まちのブランド力、産業力を高めていくことを考える。

4. 取組の方向性と具体的な取組

(1) 取組のコンセプト

鹿追町は、様々な機能が集積する鹿追市街地と基幹産業である農業の生産基盤を形成する周辺地域が一体となり、その結びつきのもと、生活の営みや生産活動などが行われる地域の構造となっていること、また、バイオマス資源の有効活用による地域の資源循環が進められ、豊かな自然とともに産業活動の特色ある資源を有しているといった地域の特性を踏まえて、次の2つのコンセプトのもと今後の方向性をまとめる。

A 様々な機能が集積する鹿追市街地と農業の生産基盤を形成する周辺地域が、それぞれの機能・特性が発揮され、有機的な結びつきのもと、安全・安心で暮らしやすいまちづくりを進める。

A-1 鹿追市街地、まちなかの利便性の活用と充実

A-2 買い物・見守りなど生活の営み確保

A-3 生活交通の維持・充実

B 地域の特色であるバイオマスなど地域エネルギー資源の活用を促進し、多面的な効果を促し、自立型の地域づくりを進めるとともに、自然、産業、社会資源を活かして、地域の交流、移住・定住の促進につなげていく。

B-1 バイオガスプラントの有効活用など

(2) 取組の方向性と具体的な取組

各々のコンセプト毎、取組の方向性及び具体的な取組は、次のとおり。

A 様々な機能が集積する鹿追市街地と農業の生産基盤を形成する周辺地域が、それぞれの機能・特性が発揮され、有機的な結びつきのもと、安全・安心で暮らしやすいまちづくりを進める。

A-1 鹿追市街地、まちなかの利便性の活用と充実

【考え方】

- ・二つの商店街、医療施設、トリムセンター、子育て支援センター、スポーツセンター、町民プール、図書館、役場等で様々なサービスが行われ、徒歩での移動も可能であり、高齢者、子ども、子育て世代をはじめ広く町民の安心、利便性を享受できる機能が集積している。
- ・鹿追市街地に建設した高齢者住宅が全て利用されているなど、高齢者住宅への需要が高まっている。
- ・人口減少は管内でも少ない方ではあるが、生産年齢人口をはじめ総人口の減少が推計されているところであり、こうした人口減少対策として、雇用の場の創出や住環境の向上は重要な課題。
- ・鹿追市街地の機能を高齢者等が徒歩で利用しやすくなるなどのさらなる利便性向上、また、多世代の交流が促進するよう、鹿追市街地の機能の一層の充実が求められる。
- ・鹿追市街地の機能が高齢者や子どもをはじめ、広く町民が活用できるよう、中心市街地と周辺地域とを結ぶ交通の充実が求められる。
- ・町においては、地域医療における看護師不足などを踏まえ、鹿追高校に看護学科の誘致が積極的に進められている。

【取組の方向性】

- 鹿追市街地の利便性を活かし、子育て世代をはじめ多世代が交流でき、高齢者等の安全・安心につながるまちなか居住を検討するとともに、町内居住が促進するよう、住環境の向上、雇用の場の創出に努める。
- 鹿追市街地の利便性が広く活用されるよう、鹿追市街地と周辺地域との公共交通の維持・充実に努める。
- 特色ある鹿追高校などを活用し、将来を担い、まちの活力となる人材づくりに努める。



【具体的な取組】

- ◎多世代交流や三世代の同居・近居、高齢者の安全・安心につながるよう、公営住宅の建替えの機会などを活用した、まちなか居住の推進。
 - ・多世代混住など多様な住宅整備（国土交通省「社会資本整備総合交付金」など）
- ◎幼小中高一貫で行っている特色ある教育の一層の充実。
 - ・文部科学省の研究開発校指定に伴い実施してきた国際理解教育・環境教育などの充実

A-2 買い物・見守りなど生活の営み確保

【考え方】

- ・町内での買い物の利便性を確保していくためには、経営者の高齢化、また隣接町などへの購買流出等を考慮しながら、現状の物販サービスのレベルが維持されていくことが望まれる。
- ・鹿追市街地においては、二つの商店街を有するなど、物販サービスが充実しており、また徒歩での買い物も可能となるなどの利便性の高い買い物環境を高齢者等の利便性向上に活かしていくことが求められる。
- ・瓜幕市街地などの周辺地域から、鹿追市街地への買い物の交通手段は、自家用車が大多数ではあるが、運転が困難となってくる高齢者の増加などを考慮して、生活交通の充実確保が求められる。
- ・独居高齢者等の見守りを、行政と民間会社などとの連携により実施しており、安全の確保や活動促進のため、着実な実施が求められる。
- ・高齢者宅の除雪（玄関前）を、行政と民間会社などとの連携により実施しており、外出など安全・安心な暮らしを確保するため、着実な実施が求められる。
- ・高齢者が、退職後も職務経験等を活かして活躍できるような仕組みが求められる。
- ・人の意見を聞く場など気軽に住民が話し合える場所の必要性を感じている。

【方向性】

- 日常的な買い物の利便性を確保するため、町内の物販サービスが維持されていくよう、若手経営者の育成や新規出店への支援、町内での購買喚起に努める。
- 高齢者等の買い物の利便性を確保するとともに、町内での購買促進につながるよう公共交通等の確保充実に取り組む。
- 鹿追市街地の利便性の良い買い物環境を活かし、高齢者等のまちなか居住を検討する。
- 独居高齢者等の見守りや、高齢者宅の除雪など、在宅の高齢者に対する生活支援について、ボランティア等を活用しながら、充実に努める。
- 職務経験等を活かした社会貢献など、高齢者の活躍の機会づくりに努める。
- 人と人との結びつきが促され、様々な地域の出来事が気軽に話し合われる機会づくりに努める。



【具体的な取組】

- ◎新規起業等に対する伴走型支援の実施や、商店街の景観整備など買い物に立ち寄りやすい環境づくり。
 - ・商工会による研修やセミナーの開催（経済産業省「小規模事業者支援推進事業」など）
 - ・「花と芝生の町づくり」などを通じた景観整備
- ◎地域の様々な機関が連携し、ボランティアも関わりながら、在宅の高齢者に対する見守りや除雪、移送など生活支援の維持・充実。
 - ・地域貢献での支援、社会参加活動を目的としたサポートボランティアの育成
 - ・関係機関の調整を図るコーディネーターの育成
- ◎地域集会所や町民ホール、民間団体等の既存スペースの活用など、様々な世代の住民が交流できる場の提供と機会の確保・充実。
 - ・各地域の集会所や町民ホール、ウリマックホール、ほほえみプラザ等の活用促進（様々な世代の住民間交流）
 - ・子育て支援センターの活用促進（子育て世代間の交流）
 - ・各地域の公民館併設の高齢者会館の活用促進（高齢者間の交流）
 - ・白寿大学等、鹿追市街地内で開催される高齢者向け行事の活用促進

A-3 生活交通の維持・充実

【考え方】

- ・町全体の6割に相当する人口が占めている鹿追市街地には様々な機能が集積しており、瓜幕市街地をはじめとする周辺地域（笹川、東瓜幕、上幌内等）との生活交通の確保が求められる。
- ・町内には路線バス1社が運行しており、町の子供バス利用助成制度が活用され、また町営スクールバスや患者輸送バスが定時運行しているほか、学校行事を含め町営バスが幅広く利用されており、今後もその安定した運行が求められる。
- ・また高齢者等への社会参加促進に向け、タクシー運賃等助成を実施しており、その継続が求められる。
- ・子供の習い事やスポーツ少年団等、魅力ある活動が行われている鹿追市街地などに周辺地域から子供が公共交通を使って通うことが難しい状況にある。

【方向性】

- 町営のスクールバスや患者輸送バスなどの運行が安定し、維持され、充実していくよう、利用状況・ニーズ等を把握しながら、利用促進に努める。
- 広く町内の子供が鹿追市街地などにある習い事やスポーツ少年団など学習や地域の魅力ある教育活動機会に参加しやすくなるよう、交通手段の検討を行う。



【具体的な取組】

- ◎通院時の利用など既存の生活交通サービスの他、子供の習い事その他活動機会の確保、高齢者等の社会参加の充実を念頭に置いた、生活交通の維持・充実。
 - ・町営バス事業等の着実な実施
 - ┌ 通院者を輸送するため、患者輸送バスの運行（鹿追町患者輸送車使用事業）
 - └ スクールバス等各種町営バスの運行
 - ┌ 子どもに対する路線バス運賃の一部助成（町内子ども地方路線バス利用助成事業）
 - └ 高齢者等に対するタクシー運賃の一部助成（鹿追町高齢者等社会参加促進事業）
 - ・生活交通の活用に関する住民への啓発
 - ・路線の自由度、運行ダイヤ、発着地の自由度など様々な観点からの生活交通の検討
 - ┌ 必要に応じ、生活交通に関する住民アンケートの実施
 - └ 行政・交通事業者・地域住民等における、自助・共助の観点も踏まえた協議

B 地域の特色であるバイオマスなど地域エネルギー資源の活用を促進し、多面的な効果を促し、自立型の地域づくりを進めるとともに、自然、産業、社会資源を活かして、地域の交流、移住・定住の促進につなげていく。

B-1 バイオガスプラントの有効活用など

【考え方】

- ・酪農の町として家畜ふん尿の処理は、避けては通れない環境問題であり、農村環境を守るとは今後住みたい町、住みよい町になるかの重要な課題であり、家畜ふん尿を活用したバイオガスプラントは、環境保全、資源循環、産業創出と極めて大きな効果があり、さらなる普及が期待されている。
- ・中鹿追プラントでは、鹿追市街地周辺の家畜ふん尿を処理し、環境保全に配慮し、排出される消化液（肥料）の農地散布、発電（施設内活用・売電）、余剰熱を利用したチョウザメ飼育等の実施など多様な活用が図られており、今後もその積極的な推進が求められる。
- ・今年度本格稼働した瓜幕プラントにおいても、収益が上がっているほか、余剰熱の有効活用の検討が求められる。
- ・平成29年1月より水素の地域活用のための実証実験が本格的に稼働され、活用検討が進められる。
- ・豊かな自然、有数の酪農・畑作地帯を活かし、町内にはジオパーク、ネイチャーセンター、ライディングパークなど、学習体験施設、教育・文化施設が充実、長年の山村留学における人と人とのつながりを通じた移住や、ピュアモルトクラブハウスの農業体験研修後に牧場従業員として定着する例も多く見られ、これら地域資源の一層の活用が求められている。

【方向性】

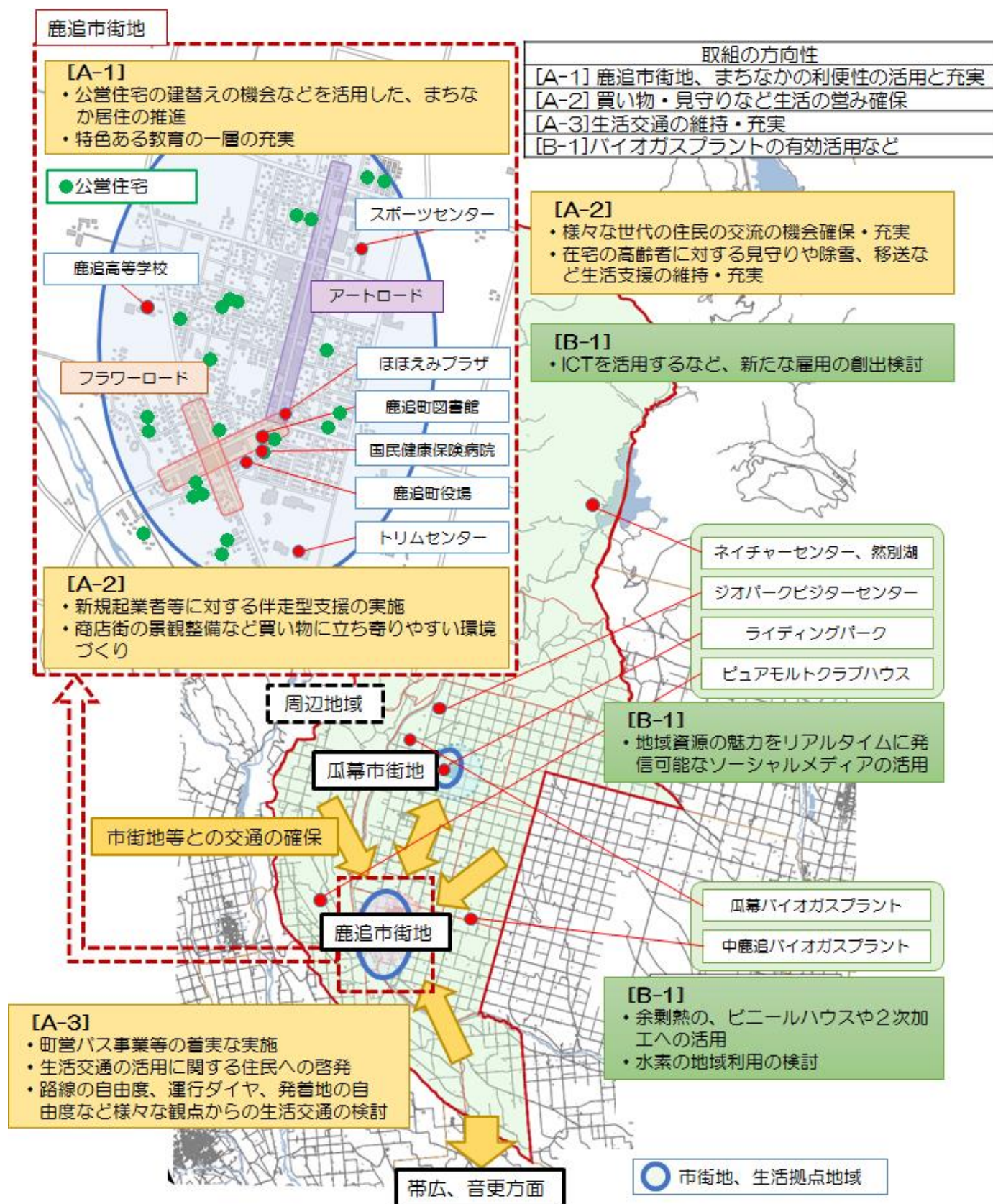
- バイオガスプラントの余剰熱の活用による地場産品の開発・商品化を促進し、クリーンな農業のイメージ醸成、地域の魅力、ブランド力向上につなげる。
- 水素エネルギーの活用に向けて、公共公益施設などの利活用を視野に入れながら取り組む。
- 余剰熱を活用した農産物の生産をはじめ、バイオガスプラントを取り巻く多様な取組を活かした新たな産業の創出や、通年雇用など雇用の創出・確保に努める。
- バイオガスプラントの視察を積極的に受け入れ、町内外に幅広くPRすることにより環境教育の推進や観光への利用につなげる。
- 山村留学、農業体験、環境学習、各種研修に利用できる学習体験施設や教育・文化施設や然別湖をはじめとした観光資源などを活用した着地型観光や視察の受け入れなど、情報発信による知名度向上・魅力発信を通じ、地域の交流や移住・定住の促進に努める。



【具体的な取組】

- ◎バイオガスプラントの余剰熱の、ビニールハウスや2次加工への活用のほか、実験が進められている水素の地域利用の検討。
 - ・中鹿追プラントで、チョウザメ飼育、マンゴー栽培、サツマイモの苗栽培の実施
 - ・瓜幕プラントで、障がい者の雇用によるビニールハウス栽培の実施（「農福連携」の構築）
 - ・水素の燃料電池自動車、水素バス、フォークリフト、酪農家、公共公益施設など地域利用の検討（環境省「家畜ふん尿由来水素を活用した水素サプライチェーン実証事業」）
- ◎地域資源の魅力をリアルタイムに発信可能なソーシャルメディアの活用。
 - ・ツイッター・フェイスブック等による情報発信の実施
- ◎ICTを活用するなど、周辺地域に至るまでよりよい職場環境、新たな雇用の創出検討。
 - ・テレワーク（ICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な職務形態）の導入検討

参考図：地域における具体的な取組のイメージ



○参考資料編

参考資料1 「北の住まいるタウン」鹿追町地域協議会構成員名簿

(構成員)

No.	団体・企業名	役職	氏名	備考
1	鹿追町	副町長	松本 新吾	
2	鹿追町商工会	副会長	石田 秀俊	
3	アートロード	会長	窪田 秀俊	
4	うりまく道の駅	会長	井出 健一	
5	農業委員会	会長	桜井 公彦	
6	J A鹿追町(営農部)	部長	河辺 哲也	
7	老人連合会	会長	新田 公男	
8	社会福祉法人(しかおい恵愛会)	施設長	山本 進	
9	子ども園父母の会	会長	中尾香奈子	
10	小学校PTA(通明小)	会長	金須 秀昭	
11	中学校PTA(瓜幕中)	会長	藤田 潤	
12	高校PTA	会長	大原 睦生	

(オブザーバー)

No.	団体・企業名	役職	氏名	備考
1	十勝総合振興局地域創生部 地域政策課	課長	山田 恭一	
2	十勝総合振興局帯広建設管理部 地域調整課	課長	滝田 哲也	

(事務局)

No.	団体・企業名	備考
1	鹿追町	
2	北海道建設部まちづくり局	

(鹿追町関係各課)

1	鹿追町建設水道課	課長	津田 祐治	(住宅計画)
2	鹿追町総務課	課長	喜井 知己	(公共施設)
3	鹿追町農業委員会	局長	桜庭 力	(土地政策)
4	鹿追町商工観光課	課長	西科 伸之	(商工・観光)
5	鹿追町農業振興課長	課長	菅原 義正	(再生エネルギー・農業)
6	鹿追町町民課	課長	島 かおる	(空家対策)
7	鹿追町企画財政課	課長	渡辺 利信	(総合戦略)
8	鹿追町福祉課	課長	佐々木康人	(交通弱者・高齢者支援・居住)
9	鹿追町瓜幕支所	支所長	檜山 敏行	(交通弱者・高齢者支援・居住)

(平成29年3月現在)

参考資料2 「北の住まいるタウン」鹿追町地域協議会取組経過

地域協議会の流れ

地域協議会（第1回）
平成28年9月9日（金）実施
課題の抽出（3章参照）



地域協議会（第2回）
平成28年12月9日（金）実施
取組の方向性（4章(1)参照）



地域協議会（第3回）
平成29年2月17日（金）実施
具体的な取組（4章(2)参照）



地域協議会（第4回）
平成29年3月27日（月）実施

取りまとめ、今後の進め方 など

検討内容

- ・鹿追町の概況（地勢、人口動態、産業など）及び現状や想定される課題から、協議会構成員の意見を徴収。

- ・抽出された課題から取組の方向性案を作成し、その方向性案や参考事例をもとに、取組の方向性について検討。

- ・第2回で議論した取組の方向性をもとに、具体的な取組案について検討。

- ・第1～3回の議論を踏まえて、計画(素案)の検討
- ・今後のスケジュール等について検討。